

70周年

夢中熱中青春ライフ!

大館市民劇場

30

十月七日、市民文化会館において「大館市民劇場」定期公演「新・猿蟹合戦」が上演されました。今回は「大館市民劇場」の代表として製作・演出を手がけながら、自主公演のほか県民芸術祭に参加するなど積極的に演劇活動を続けている、東台の伊藤哲允さんにお話を伺いました。

県芸術祭にも参加

戦後大館では、国鉄の演劇サークルが市民の演劇活動の中心として活躍していました。「大館市民劇場」は、そのサークルと桂高校OGによる「演劇



第5回定期公演打ち上げ

集団ホリゾント」、下川沿青年会演劇サークル、昭和二十九年から続いた「杉の子クラブ」を改称した「大館市民演劇クラブ」が合同して、昭和六十三年に発足しました。会員は現在二十数名ですが、教員が多いのが特徴と言えます特徴でしょうか。

今年の定期公演では南北戦争当時の「戦死」をテーマとして展開される「名もなき兵士」、六回目の定期公演となった今年、は、明るい童話風な舞台の「新・猿蟹合戦」を上演しました。また、昭和五十一年にチェーホフの「熊」で県芸術祭に、平成三年には「くされ縁」などで県民芸術祭にも参加しました。

サークルの活動の目的は、自主公演で自分たちの演劇を発表するのはもちろんですが、中央の劇団を招いて定期的な公演を



「新・猿蟹合戦」練習風景

実現させるために、鑑賞団体を組織化したり、文化芸術活動にも積極的に参加したりすることです。

会員募集中!

中央公民館を借りてけいこをしているんですが、開館時間に制約があるので、定期公演の前などは長根山町内会館を借りて夜おそくまでけいこしています。けれども、舞台装置をしまっておく所や舞台セットを製作する場所がなかなかなくて困っています。

私たちのサークルでは今、会員の募集をしていますので、舞台に立ってみたいという人や照明をやってみたいという人、演劇に関心のある人に是非入ってほしいですね。初めてという人でも大歓迎です。

釜石発 → 大館着

前略

大館市民になりました

31

☆今回は旭ヶ丘の齋藤博文さんご一家です。

Q・ご家族は何人ですか?

妻の静子と長女の睦美と次女の理美の四人です。

Q・どちらからおいでになりましたか?

今年の三月に転勤で釜石市から来ました。

Q・大館の印象はいかがですか?

自然がとてもきれいだと思いました。それから、休みの日に家族で長木川河川公園に出かけたりしますが、市内に憩いの場所などがあっていい所だと思います。二ツ山総合公園の整備も進んでいるみたいだし、今から完成がとも楽しみです。仕事柄いろいろな所に住んでみましたが、大館は住みやすい街だと思います。

Q・食べ物や言葉はどうですか?

こちらに来てからタケノコ採りをしました。モウソウチクは前から知っていましたが、みそ汁に入れて食べたヒメコダケは本当にうまいと思いました。

言葉では、子供が学校で聞いた「からくち」(口こ

たえの意味)が分からないと、妻に聞いたりもしていました。が、もうずいぶん慣れたみたいですね。今は不便だと感じることはないですね。

Q・大館にどんなことを望みますか?

釜石には「鉄の歴史館」があつて、子供がよく行っていました。大館にも歴史館のような施設がほしいですね。それと、長木川河川公園に公衆トイレがもっとあればいいと思います。



博文さんと奥さんの静子さん、長女の睦美ちゃん(右)と次女の理美ちゃん